

韓国 の 口 蹄 疫 情 報

韓国において口蹄疫が再発しています。

引き続き侵入防止と疑い事例の早期通報の徹底を！

1 経緯

- (1) 韓国では昨年1月に発生し、6月にいったん終息したが、11月に再発。
- (2) 昨年11月29日に慶尚北道の安東市で発生した口蹄疫(O型)は、その後ほぼ全土に拡大。
- (3) 韓国政府は、昨年12月にワクチン接種を決定、全国すべての牛、豚を対象に2月までに2度のワクチン接種を終了。
- (4) 韓国政府は、4月3日に一連の発生が終息しすべての移動制限を解除した旨OIEに報告(約6,200農家の約348万頭(牛:15万頭、豚:332万頭)を殺処分。
- (5) 4月17日に慶尚北道の永川市で再発し、4月22日までに同市内で3例が報告(全て豚)。

2 韓国政府の防疫対応(4月17日の再発以降)

- ▼感染豚群のみを殺処分、移動制限は発生農場のみ。
- ▼全国農場の一斉消毒、臨床観察強化を実施。
- ▼発生農場周囲3kmの農場を対象にワクチンを追加接種。

3 我が国の対応

これからの季節、人や物の動きが活発になることを踏まえ、改めて空港等での水際対策が強化されます。



飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp

韓国で口蹄疫が再発しました！

口蹄疫とは？

▼牛や豚などがかかる感染力が非常に強い伝染病で、まず発熱や食欲不振が見られ、次によだれを流し、口やひづめ、乳房に水ぶくれができるのが特徴です。

農場へウイルスを侵入させないポイント

- ▼ 自分の農場に入る際も、靴、持ち込むものの消毒の徹底
- ▼ 外部からの人や車を農場に入れない
- ▼ 農場に立ち寄る車(タイヤや運転席)や持ち込む物は必ず消毒
- ▼ 踏込消毒槽、専用の作業着及び長靴を設置
- ▼ 発生国に滞在し、ウイルスを伝播する可能性のある人や発生国から輸入された物を農場に近づけない。渡航は控える。
- ▼ 家畜の導入は、状況を見据えて、より慎重に
(導入した場合は、隔離観察を徹底) 等



毎日、必ず家畜を観察して、おかしい時には、すぐに獣医師や家畜保健衛生所に連絡してください。

日本は2月5日に「口蹄疫清浄国」に復帰しました。

飛騨家畜保健衛生所

TEL(0577)33-1111 FAX32-9019

E-mail:c24508@pref.gifu.lg.jp